

# アフリカに生きる～ベナンの文化と暮らし～

**Noushile ma !!** (ヌシレマー＝アニ語で「こんにちは！」)

平成 27 年度 4 次隊で西アフリカのベナンに派遣中の高木拓希です。

**Ou da alafia ?** (ウダアラフィア＝同じくアニ語で「元気ですか？」)

ちょっと間があきましたが、第 2 回目となる今回の報告では、  
僕の活動の任地であるドンガ県ペネスル区**コドワリ村**(Kodowari)を紹介します。



左はバシラ市内にある湖、右は村の中心を通過してベナンを南北に繋ぐ幹線道路(「グドロン」と呼ばれています。)

## 【コドワリ村ってどんな村？】

コドワリ村は **Bassila**(バシラ)と **Penessoulou**(ペネスル)という二つの町の間にある小さな村。

多分、インターネットの地図検索をかけても出てこないんじゃないでしょうか(一度検索してみてください！)

人口は約 4,000 人で大半が**アニ族**。

冒頭のあいさつは、そのアニ族が使う**アニ語**という現地の言葉のあいさつで、一日の間に何度も聞くお決まりのフレーズです。



隣国**トーゴ**とは、行こうと思えば(僕は出来ませんが!)歩いて越境出来てしまう程近くに位置しているため、村の文化や風習はトーゴに影響されているものも数多くありますし、トーゴ側のアニ族出身という住民もいます。

村で暮らす人々の九割近くが農業に従事し、残りの人は個人商店を構えたり、服の仕立てやバイクの整備をしたりすることで生計を立てています。また、村の男性の多くは近隣の町バシラや大都市コトヌーまで出稼ぎに行っています。そのためか、村の中では

農業も家事も子育ても頑張る**たくましいお母さんたち**の姿が目立ちます。

そして、それ以上にたくましいのは**村の子供たち**。  
時間があればひたすらボールを追っかけたりタイヤ  
を回したりしながら走り回っている元気いっぱいな彼  
らは、たとえ転んで怪我をしても数秒ですっと泣き止  
みまた遊びだします。2、3歳ぐらいの小さな子です  
ら、周りに大人がいないと涙を堪えて自分で立ち上  
がるほどです。

また、親や周りの大人に村の仕事の手伝いを頼ま  
れると一生懸命にやる**はたらき者**でもあります。

土曜日や日曜日には、子供たちが総出で朝から畑を耕したり、雑草を刈ったりする光景がよくみられます。



## 【コドワリ観光の目玉:動物】



村の人口と同じぐらいの数は生息していそうなヤギたち。人馴れしているので至  
近距離の撮影でも全く動じず道草を頬張っている様子。

さらに人間以上に目立つのは村の至るところで放し飼いにされて  
いる**動物たち**。コドワリ村では**ヤギ**や**羊**をはじめとして**牛**、**鶏**、**七面  
鳥**、**ほろほろ鳥**、**アヒル**など多くの生き物が村人と一緒になって生  
活しています。

ヤギや羊(**Oboro**=アニ語でオボロ、区別はされていない)などは  
生い茂った雑草を食べたり、落ち葉や生ごみの清掃をしたりして住  
民と共存しています。時に天日干してある穀物を盗み食いして怒  
られている姿も目にします。

ここコドワリのヤギたちの間では僕が暮らす家のコンクリ基礎部  
分の少し張り出したところが人気らしく、7、8頭群れになって自宅周  
辺にたむろしています。なかでも、家の正面の鉄製門扉の前が大人  
気で、以前、僕が家で休んでいたら何やらドンドンと扉を叩く音がす  
るので来客かと思い開けてみるとヤギだった、ということがありまし  
た。



上の写真の七面鳥(**Torotoro**=アニ語でトロトロ)は村で特別な行事やお祭りがある時に食べるそうです。これまた人によく慣れているので近づいても逃げません。子供たちがよくこの七面鳥に大声で呼びかけて「トロトロ(名前の由来)」と鳴かせて遊んでいます。



放牧される**牛**の様子。

近くで見るとその大きさだけでも視覚的に圧倒されますが、これが数十頭の群れになって移動するので音や匂いはなかなか強烈です。

それを束ねるのは地域で伝統的に牛飼いをする人々。ここにも発展を続けるアフリカらしさがあらわれていて、牛飼いの人はスマートフォンを片手に音楽を聴きながら巧みに牛を誘導していきました。

また、鶏(**Acheri**=アニ語でアチェリ)も至るところにいます。朝の5時頃になると村中の鶏たちが一斉に鳴きだし、それと共に村人たちは一日の活動をはじめます。

右の写真は、アヒルの親子です。

コドワリ村には他にも動物がたくさんいます。アフリカを想像するとライオンやキリンといったサバンナの野生動物を想像される方が多いと思います。現に、自分自身、こちらに来るまではアフリカは東も西も大体そのようなものだと思っていました。東アフリカのケニアやタンザニア辺りではそうした自然に生きる野生動物を眺めるサファリツアーが人気ですが、ここ西アフリカはベナンの、人と動物とが入り混じり共存している風景はまたそれとは違った趣がありお勧めです。



## 【次回について】

書き終わった後に幾分「動物」成分が多いように思いましたが、それほど動物だらけなのだ、とだけ思っていたら幸いです。コドワリ村には動物以外にもまだまだ沢山紹介するところがありますので、次回は「村の文化」をテーマにお届けします！

それでは、**Bile butine !!** (ビレブティネ=「また今度」)

更新日は未定となりますが、できるだけ近いうちに掲載したいと思います。

ご意見・ご質問等ありましたら以下のメールアドレスまでご連絡ください。

[mailaddress0323\(アットマーク\)gmail.com](mailto:mailaddress0323@gmail.com)